

作成日: 2015年6月16日

改訂日(V.5): 2017年4月20日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: ネクサス2 OWE

会社名: 日本農薬株式会社
 住所: 〒104-8386 東京都中央区京橋 1丁目19番8号 京橋OMビル
 担当部門: 環境安全部
 TEL. 03-6361-1426, FAX. 03-6361-1451
 e-mail: kankyuanzen@nichino.co.jp
 緊急連絡電話番号:(平日) 03-6361-1426 (環境安全部)
 (休日、夜間) 04-2929-8961 (ALSOK)
 推奨用途及び使用上の制限: 白蟻防除剤、木部処理剤
 SDS番号: 524-04(M15-14)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|----------|--|--|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 自然発火性液体 | 区分外 区分外 |
| 健康有害性 | 急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト) 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 皮膚感作性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分外 区分外 区分4 区分外 区分1 区分1 区分2(神経系) |
| 環境有害性 | 水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(長期間) | 区分2 区分2 |

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



| | |
|---------|--|
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | 吸入すると有害 重篤な眼の損傷 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 臓器(神経系)の障害のおそれ 水生生物に毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性 |

注意書き

【安全対策】

- ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。

- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
- 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診断を受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事等の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

他の危険有害性：水分が蒸発すると、引火のおそれがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

有効成分化学名(一般名)：

- 1) 1-(2,6-ジクロロ- α , α , α -トリフルオロ-*p*-トリル)-4-(ジフルオロメチルチオ)-5-[(2-ピリジルメチル)アミノ]ピラゾール-3-カルボニトリル
(一般名 ピリプロール)
- 2) (*RS*)-2-(2,4-ジクロロフェニル)-1-(1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-イル)ヘキサ-2-オール (一般名 ヘキサコナゾール)
- 3) 3-ヨード-2-プロピニルブチルカーバメート (一般名 IPBC)

成分及び含有量：

| 成分 | 含有量(w/w) | CAS No. | 安衛法 No. | 化審法 No. |
|----------|----------|-------------|--|----------|
| ピリプロール | 1.0% | 394730-71-3 | 8-(1)-3951 | — |
| ヘキサコナゾール | 6.0% | 79983-71-4 | 8-(3)-1150 8-(3)760 | (5)-6899 |
| IPBC | 5.0% | 55406-53-6 | 2-(5)-170 | (2)-3456 |
| | | | 化管法第二種指定化学物質、 化審法旧第二・第三種監視化学物質 安衛法表示・通知対象物 | |

<その他>

| | | | | |
|-------------|---|---|---|---|
| 溶剤、界面活性剤、水等 | 残 | — | — | — |
|-------------|---|---|---|---|

4. 応急措置

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気のところへ移し、安静に保つ。異常がある場合は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱ぎ、付着部を多量の水と石けんでよく洗浄する。異常が現れた場合には、医師の診断を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。直ちに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水を飲ませる。意識の無い時には口から何も与えてはならない。医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火時の注意：消火活動には必ず適切な保護具（自給式空気呼吸器等）を着用し風上より行う。燃焼又は高温により発生するガス、煙、蒸気、ミストを吸い込まないように注意する。消火水が下水や河川に流れ込まないように適切な処置をとる。

消火剤：粉末、泡沫、炭酸ガス、水
使ってはならない消火剤：情報無し。

6. 漏出時の措置

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具（保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護マスク等）を着用して、眼や皮膚に触れたり、ガスやミストを吸い込んだりしないようにする。漏出物をオガクズ、土、砂等に吸収させ、密封できる容器に回収する。その後、汚染された場所を水で洗う。漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように措置する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：局所排気装置を設置し、換気のよい場所で行う。適切な保護具を着用し、ガスやミストを吸い込んだり、眼、皮膚に触れないようにする。作業後は、すみやかに眼、手、顔を洗い、うがいをする。

保管：容器を密封し、換気のよい冷暗所に保管する。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かないところに施錠して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：局所排気装置を設置する。取扱い作業場の近くに洗眼、うがい、手洗い、安全シャワー設備を設置する。

個人用保護具：状況に応じた適切な保護具を着用する。保護マスク、防毒マスク（有毒ガス用）、保護眼鏡、ゴーグル、保護面、保護衣（不浸透性、静電気防止服）、エプロン、ゴム手袋
作業時に着用していた衣類等は、他のものと分けて洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

外観：淡黄色澄明油状液体
臭い：データ無し。
比重：1.04/20°C
pH：6.0~9.0/20°C（20倍希釈液）
引火点：データ無し（水分が蒸発すると、引火のおそれがある。）
自然発火性：常温で空気と接触しても自然発火しない。

10. 安定性及び反応性

化学的安定性：通常の手扱い条件では安定。
危険な反応：知られていない。
危険有害な分解生成物：知られていない。

1 1. 有害性情報

急性経口毒性： ラット LD₅₀ 値 (mg/kg) 雌 >2000 (6 例中 1 例死亡。)
 急性経皮毒性： ラット LD₅₀ 値 (mg/kg) 雄, 雌 >2000 (死亡例無し。)
 急性吸入毒性： LC₅₀ 値 (mg/L/4h) 推定値 ATEmix = 1.7 (毒性未知成分量は 83.5%)

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：

ウサギ

軽度刺激物

(適用終了 10 日後までに刺激性変化消失。GHS の皮膚刺激性の判定基準には該当しない。)

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：

区分 1 に分類される IPBC を区分 1 の濃度限界の 3% 以上含有することから区分 1 とした。毒性未知成分量は 84.7%。

製剤の 20 倍希釈液のデータ：ウサギ 刺激物

(適用 6 日後までに刺激性変化消失。)

皮膚感作性： 区分 1 に分類されるヘキサコナゾールを区分 1 の濃度限界の 1% 以上含有することから区分 1 とした。毒性未知成分量は 83.5%。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：

区分 1 (神経系) に分類されるピリプロールを区分 2 の濃度限界の範囲である 1.0% 以上・10% 未満含有することから区分 2 (神経系) とした。なお、区分 2 (全身毒性) に分類されるヘキサコナゾールを含有するが、区分 2 の濃度限界の 10% 未満であり該当しない。毒性未知成分量は 89.0%。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：

区分 2 (肝臓、副腎) に分類されるヘキサコナゾールを含有するが、区分 2 の濃度限界の 10% 未満であり該当しない。毒性未知成分量が 67.2% 含まれており分類できない。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)：

オオミジンコの毒性データにより区分 2 とした。

水生環境有害性(長期間)：

慢性区分 1 に分類される成分の含量及びその毒性値から推定し、区分 2 とした。毒性未知成分量は 95.5%。

生態毒性：

コイ LC₅₀ 値/96h 15 mg/L

オオミジンコ EC₅₀ 値/48h 3.5 mg/L

残留性・分解性： 製剤のデータ無し。

生体蓄積性： 製剤のデータ無し。

土壌中への移動性： 製剤のデータ無し。

オゾン層への有害性： 製剤のデータ無し。

1 3. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。残薬及び洗浄液は、下水等の水系に捨ててはならない。

1 4. 輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

国連番号： 3082

品名(国連輸送名)： ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S.
(contains pyriprole)

国連分類： 9

容器等級： III

海洋汚染物質： 該当
緊急時応急措置指針番号：171

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法：毒物及び劇物に該当せず。(ピリプロールは劇物であるが、含有量が2.5%以下であり該当せず。)

化審法：ヘキサコナゾール(旧第二種監視化学物質、旧第三種監視化学物質)

労働安全衛生法

表示対象物(法57条、施行令第18条)：IPBC(政令番号606、沃素及びその化合物)

通知対象物(法57条の2、施行令第18条の2)：IPBC(政令番号606、沃素及びその化合物)

化学物質排出把握管理促進法(化管法)

指定化学物質：ヘキサコナゾール(第二種・政令番号33)

16. その他の情報

参考文献

- 1) JIS Z 7252：2014、GHSに基づく化学物質等の分類方法
- 2) JIS Z 7253：2012、GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。